

産学共創による輝く次世代の地域人材育成システム推進事業

現状・課題

【自治体】

- 前事業の成果等の普及
- 産業界からの要望等が様々な窓口寄せられ、対応に苦慮
- 専門高校の定員充足率の低下

【専門高校】

- 企業等と連携した教育活動が属人化しており、連携が一部企業にとどまっている
- 企業や大学等との連携手段がない
- 新しい技術についての指導の困難さ

【産業界】

- 人材確保
- 産業(企業)に対する理解促進
- 出前授業や就業体験、共同プロジェクト等の提案先

県全体での産業界と教育界の連携の持続的仕組みづくりが必要

実施内容

県が高校と産業界等をつなぐ

- 県、産業界、大学で事業運営委員会を発足
- 委員会に属する産業界の団体等を通じて、域内全域の企業等が専門高校と連携できる体制を構築

産学連携コーディネーターが支援（産業教育アドバイザー）

- 学校は、産学連携コーディネーター（産業教育アドバイザー）を中心に、地域産業界、地域自治体、大学等と連携し、教育活動を計画・実施
- 学校ごとに連携体制を確立
- 企業・学校間連携の教育活動を推進



小中学校との連携強化

- 高校が小中学校の探究学習を支援
- 専門学科による出前授業
- 高校生とともに企業見学に参加

先進的取組校の利点を生かした事業展開

【先進的取組校】**拠点** 福井県立坂井高等学校（農業-工業-商業-家庭）
前指定校 福井県立若狭高等学校（水産）

- 前回事業にて発足した「坂井高校コンソーシアム」「若狭高校共育パートナーシップ」を活用した様々な教育活動を展開
- CEOによるコーディネートのノウハウや成功事例を域内の専門高校に共有 等

成長モデル校の取組を発信

【成長モデル校】**拠点** 福井県立武生商工高等学校（工業・商業）

- 産学連携コーディネーターの育成と活用
- 専門高校のモデルとなる取り組みを他校へ発信・共有
- 地域産業や先端技術を取り入れ、産業界と連携したカリキュラムの改善や体系的教育活動の実施 等

域内の全専門高校へ普及

- 産学連携コーディネーターと同等の人材「産業教育アドバイザー」の支援を受け、産業界と連携したカリキュラムの改善や体系的教育活動を実施 等
- 域内の同一学科や他学科間での探究的な活動等の展開

目的

| | | | |
|------|--|---|---|
| 【方法】 | すべての専門高校が自治体や産業界等との協力体制構築へ向けて整備 | 各校が連携する企業や人材のリストを作成し、専門高校間で共有・活用 | マイスター・ハイスクールの取組を域内の中学校にデジタル発信 |
| 【効果】 | 学校・産業界のニーズに応じた実践的なカリキュラムの開発や共同プロジェクト等に組織的かつ持続的に取り組める | すべての専門高校が要望に応じた出前授業や企業見学、インターンシップを実施でき、地元企業への関心が高まる | 専門高校の魅力が中学生や保護者、教職員に伝わることで、進路選択の新たなアプローチとなる |

エコシステムの確立

地域人材育成・確保

専門高校の魅力発信

産学共創による輝く次世代の地域人材育成システム推進事業

